

窓

ひなちゃん 一人で行けたね



上 バスを待つ陽向子さん。違うバスに乗らないように気を付ける。左は見守り役の中江さん
下 無事にバスから降り、お母さんに報告する陽向子さん(右)。中江さんが見守る。いずれも長野市

「バス乗客のふりをして見守っていただけの方を募集しています」
長野市の信州大学の掲示板に昨年11月、1枚のポスターが貼られた。両手でピースサインを出し、にっこり笑う女の子の写りが載っていた。
4年生の野田十和子さん



中江光貴さん



野田十和子さん

(23)は、ポスターを見つけ、思わず足を止めた。「ひなちゃんだ」
2カ月ほど前。障害がある子どもたちのキャンパスに参加していた。キャンドルファイアやパーベキューを楽しむ小島陽向子さん(10)の笑顔を思い出した。

ポスターにあった番号に

電話をかけた。2日後、大学に来たひなちゃんのお母さんから説明を受けた。ダウン症のひなちゃんは大野養護学校小学部の4年生。市内の自宅から学校まで、お母さんが車で送迎してきたけれど、週に1回、1人で通学する練習を始めたい。ただ、乗り継ぎもあるバス通学が心配。親がこっそり見守りたいけど、気づかれそうで――。

座ったのは、ひなちゃんの3列ほど後ろ。不意にふり返ったひなちゃん目があった。笑顔を返してごまかした。
8時すぎ、長野駅に着。乗り継ぎの別のバス停まで歩く。
ベンチで次に乗る便を待つ20分間、違うバスが何台も目の前で停車した。ひなちゃんが立ち上がるたび、中江さんも腰を上げる。行き先表示を確かめたひなちゃんがベンチに戻り、中江さんも座った。
無事に目的のバスに乗って、めざす停留所は警察署前。だんだん近づいてきた。でも、ひなちゃんはブザーを鳴らさない。中江さんが手を伸ばしかけたとき、ひなちゃんがポタンを押しした。
8時半。バスを降りたひなちゃんは、お母さんのスマホにメッセージを送った。

12月。野田さんの同級生の中江光貴さん(22)は、早起してひなちゃんの家のおぼのバス停に向かった。赤いランドセルを背負ったひなちゃんが、お母さんと立っていた。
朝の7時半。ひなちゃんがバスに乗ると、中江さんは少し間をあけて後に続いた。事情を知っている運転手が待っていてくれた。

「おかあさん ちゃんとおりたよ」
すぐに返事が届いた。「だいせいこう! がんばったね」
(鶴信吾)